

平成30年度学校関係者評価

専門学校中央医療健康大学校 理学療法学科

平成30年度学校関係者評価委員

■保護者

伊藤 美栄子 様 (3年生保護者)

■企業関係者

牧野 寛 様 (浦島メディカルクリニック)

■他校関係者

石塚 和重 様 (筑波技術大学 保健科学部 学部長)

1. 教育理念・目標

【自己評価結果】		平均
1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	B
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	A
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	B
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	C
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A
【現状の問題点】		
学生に小冊子を作成して配布してあるので、上手に活用して教育理念・目標をより浸透させる必要がある。		
【改善のための方策】		
学生クレドについては、学年の始めと実習前のオリエンテーションで読み合わせる。FD会議を定期的実施する。		
【関係者評価】		
4については、適切な目標設定が出来なかったのか、実行が出来なかったのか(石塚)3とも関連性があるが、学生に十分浸透されていない。例えば、理学療法士としての資質や生活面でのルールなど十分に浸透していないために生じるトラブルがある。その意味で実行が出来ていない。(小林)		

2. 学校運営

【自己評価結果】		平均
5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	B
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	B
9	組織内の連携は適切に図られているか。	A
10	上司の指示は適切にされているか	B
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は十分なされているか。	B
13	BSCは適切に活用されているか。	B
【現状の問題点】		

全体的にまだ改善の余地が大きい。就業規則整備については他科と比べて低いが学園で統一されているものなので、周知が遅れている可能性がある。上司の指示の適切性も全学で最低なので改善したい。

【改善のための方策】

就業規則や規程について学科会議内で確認周知する。
報連相の徹底。
上司は適切な指示を行う。

【関係者評価】

「上司の指示の適切性」について、具体的に指標とするものはあるのか。（石塚）教員の主観的な意見である。（鈴木）

3. 教育活動

【自己評価結果】		平均
13	授業評価の実施・評価体制はあるか	A
14	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
15	資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	C
16	資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	B
17	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
18	目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	B
19	職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	A
20	シラバスは十分に検討し作成されていたか。	A
21	シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	B
22	教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23	十分に余裕を持って教育行事の準備が来ているか。	B
24	学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A

【現状の問題点】

合格率が妥当とは全国平均を基準とする。入学当初からの学習指導法から考えて行き、4年間でどのように指導していくかの計画が必要である。不合格者対策も改善の余地があるという結果になっている。

【改善のための方策】

初年次教育に重点を置き、1～4年次までの国家試験対策の計画を確実に実行する。
それに対する反省会を行い、次年度の対策につなげる。
FD会議の定期実施。

【関係者評価】

21について、大学ではシラバスはその担当任せとなっている現状である。専門学校はコアカリキュラムであるという面からも教員間で検討が出来る体制は評価できる。（石塚）国家試験対策について、昨年度はあまり点数の取れる問題（試験）ではなかったことから、問題傾向に変化がみられたと思う。ただ、臨床力を問われる問題が出題された。臨床力を高めるためにも、学生自身が学ぶ姿勢（主体性）や自律性をどう育てるか、問題意識（危機感）をどう持たせるかが重要になる。（石塚）息子と話をしている限りでは、親としては学校でも実習でも丁寧に指導頂いているように感じている。（伊藤）

4. 学修成果

【自己評価結果】		平均
25	就職率の向上が図られているか	A

26	退学率の低減が図られているか	A
【現状の問題点】		
特に問題はないが今後も就職率向上と退学率低減に努めていきたい		
【改善のための方策】		
学生に対する学科アンケートの実施継続。 退学リスクのある学生に対し、学生本人、保護者との連携（連絡、面談等）を徹底する。		
【関係者評価】		
有効求人倍率はどのくらいか。（石塚）県外からの求人も多数寄せられている。凡そ10倍程度と思われる。（遠藤）実習先としては、挨拶が出来たり、スタッフや患者様とのコミュニケーションが取れる学生を希望する。（牧野）学校としては職場で必要とされる人材を育成することが重要であると思う。（石塚）		
5. 学生生活支援		
【自己評価結果】		平均
27	学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	A
28	各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	A
29	防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	B
30	進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31	中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A
【現状の問題点】		
防災については他科より低い評価なので、どのようにすべきかの検討が必要である。		
【改善のための方策】		
防災については、学校全体で学生に対してのフィードバックを行う必要がある。		
【関係者評価】		
特になし		

6. 教育環境		
【自己評価結果】		平均
32	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	B
【現状の問題点】		
計画的な整備を行いたい。		
【改善のための方策】		
指定規則の変更があり、必要物品について購入し、準備をしている。		
【関係者評価】		

特になし

7. 学生の受け入れ募集

【自己評価結果】		平均
33	学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法、時期は適切か。	B
34	入学案内（パンフレット）には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35	体験入学の時期、回数、内容は適切か。	B
36	入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	A

【現状の問題点】

体験入学の評価が低いのは学生募集上問題でもあるので、改善に向けた検討が必要である。

【改善のための方策】

体験入学の回数と効果については改めて検討する。

【関係者評価】

推薦入試や一般入試に比べて、A0入試では学生の能力（学力など）を推し量ることが出来ない。学習経験（習慣）の無い学生が入学して来る現状の中で、現役生を如何にDropoutさせることなく国家試験に合格させることが重要。（大学のように）単位制の検討も必要でないか。また、入学前教育をはじめ、早期から学習習慣をつけさせるためにも初年次教育に注力すべきである。（石塚）

8. 財務

【自己評価結果】		平均
37	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
38	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A

【現状の問題点】

特に問題はないので、今後も収支計画や執行等の改善に努めていきたい。

【改善のための方策】

引き続き月毎に執行状況を確認する。

【関係者評価】

特になし

9. 法令等の遵守

【自己評価結果】		平均
----------	--	----

39	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	B
41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	A
【現状の問題点】		
自己評価の改善の評価をより高くしていくことが重要である。改善案をBSCに関連付けるなどしていったらどうかと思われる。		
【改善のための方策】		
改善案をBSCに盛り込んでいく。		
【関係者評価】		
特になし		